

農場通信 2022年 11月号

2022/10/25

トヨタ研究農場の「今」をお知らせ！ 圃場の写真と、環境データ・管理方法も合わせてご覧ください！

① 圃場 ハウス ② 試験内容


③ 開始日 ④ 終了予定


① 第4 A ② ココバッグ展示栽培

③ 2022/8/30 ④ 2023/7月下旬

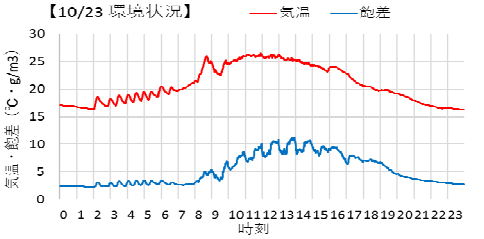
<p>品目</p> <ul style="list-style-type: none"> 栽培中 栽培準備中 今月最終 	圃場写真①	圃場写真②
<p>直近の環境データ・管理方法(晴天日)</p> <p>※特に表記のないものは設定と実測の温度を示しています</p>		<p>今月の状況と今後の管理</p>

大玉トマト





【10/23 環境状況】



品種は例年通り桃太郎ホーペアシスト接木9cmポット苗。8/30日定植。4年目と新品バッグでの生育比較、『ハーフ』バッグの比較展示も行っています。

現在4-5段開花、10月下旬頃から収穫となります。初期草勢が非常に強く、肥料と水は控えて管理していましたが、着果負担がかかるのでECは1.8まで上げています。給液量は日射比例で株1200ml前後。バッグ間で大きな生育差は見られません。


① 第4 B ② ミニトマト品種比較試験


③ 2022/7/25 ④ 2023/6月

① 第4 C ② 大玉トマト品種比較試験

③ 2022/7/25 ④ 2023/6月

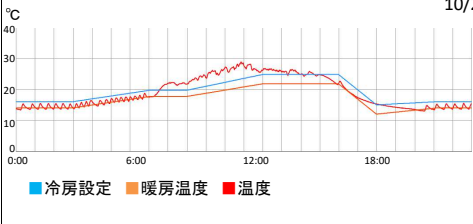
ミニトマト







7段目の収穫が始まっています。高温による長玉が多く見られましたが10月に入ってから少なくなりました。給液の上げ遅れによって、一時期樹勢が弱くなりましたが給液管理や夜温の温度管理を見直し、樹勢を戻しました。

給液は日射比例制御、晴天時は約1200cc、給液ECは1.9、排液率10-20%になるよう調整。



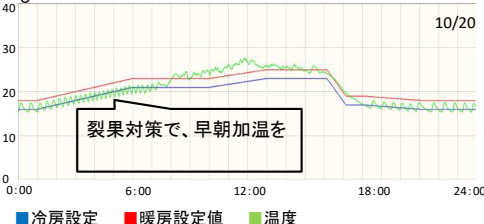
大玉トマト





3段目の収穫が始まっています。裂果が多く見られ、品種差がでています。3.4段目は花飛びが多くなっています。そのため、樹勢はやや強めです。

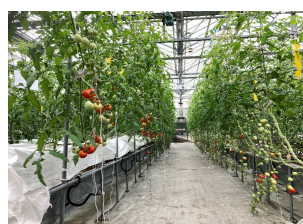
給液量は、プロファーム(日射)で制御開始、晴天時で1000ml/株、ECは1.9、排液率10-15%になるよう調整しています。




① 第4 D ② 品種比較&肥料高騰対策試験 ③ 2022/8/23 ④ 2023/4月

① 第4 E ② ベンチ・品種比較試験 ③ 2022/9/1 ④ 2023/5月

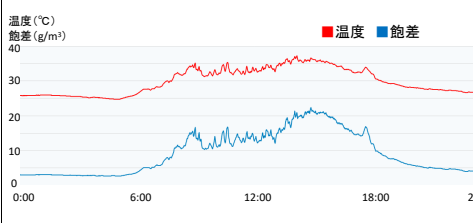
変わり種トマト







多くの品種で収穫が始まりました。コナジラミの発生が増えたため現在、消毒を行っています。

コナジラミが落ち着いたら、追加でバコトップ放飼を行います。



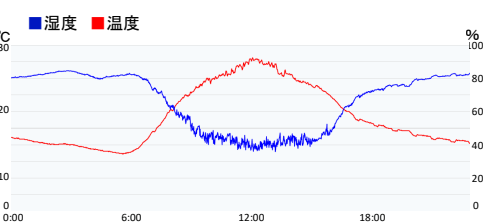
イチゴ





9/1、9/28に定植しました。9/1に定植した区画で開花が始まりました。

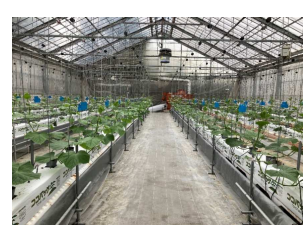
給液量200cc/日、灌水回数5回、EC0.5前後で管理をしています。




① 第4 J ② 品種・作型・仕立て方比較試験 ③ 2022/10/6 ④ 2023/8/30

① 第4 I ② 排液リサイクルシステム実証試験 ③ 2022/8/19 ④ 2023/6月

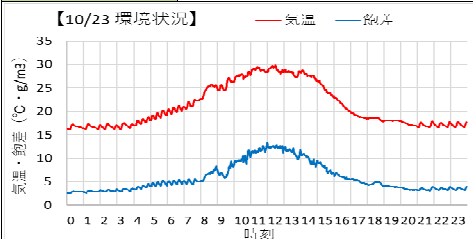
キュウリ







10/6に定植しました。9cmポット1本植え。品種は勇翔・プレスト・ニーナズ、台木は全てゆうゆう輝黒。今作は、年1作・2作の比較や仕立て方の違いが年間収量に及ぼす影響を調査します。

10/24に親蔓の摘心を行い、子蔓4本に仕立ての蔓下ろし栽培とします。環境管理はプロファームの『プラスアルファプログラム』を活用してキュウリに最適な環境を作り出します。



大玉トマト

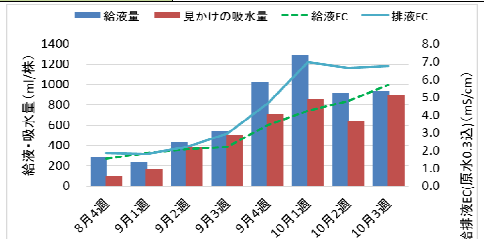




10月よりハチを導入しました。1段目の収穫が間近です。

給液量は1400ml/株(晴天)。ECは7.0で、これを上限として様子を見ていきます。

毎給液に排液を最大50%混入しており、圃場外の排出量はゼロです。



① 第2 露地 ② ブロッコリー品種比較試験 ③ 2022/8/24~④ 2023/4月

ブロッコリー		 ◀ 1作目
	①年内作 7/27播種、8/25定植。 ②年またぎ作 8/19播種、9/15定植。 ③年明け作 9/5播種、9/30定植。 ④年度末作 9/20播種、10/14定植。 ⑤春作 1月中旬播種予定。	1作目、一部で出蕾開始。 2作目、1回目の追肥完了。 3作目、定植済み。 4作目、定植済み。 台風と雨の影響影響で、根痛みや生育の遅れが起っています。

① 第3 M ② エンドウココバック栽培展示 ③ 2022/6/25 ④ 2022/9月

エンドウ		
		9月19日にスナップエンドウ・藤娘エンドウを直播しました。昨年同様10cm株間です。現在10節程に生育して誘引開始しています。今後の作業は側枝整理を行います。

① 第6 露地 ② キャベツ品種比較試験 ③ 2022/8/19~④ 2023/4月

キャベツ		 ◀ 1作目
	冬キャベツ 計4作型 ①年内作 8/19定植、10/3追肥。 ②年またぎ作 9/3定植、10/3、10/18追肥。 ③年明け作 9/12定植、10/12追肥。 ④3-4月作 9/26定植、10/18追肥。 春キャベツ 計1作 年明け作 9/26定植、10/18追肥。	①はやや生育が遅れています。10月の降水量の少なさが影響しています。 ②は結球が始まってきました。 ③もやや結球してきました。定植直後に台風に遭い、心配な作ですが、病気も出ていません。 ④春は9/26に定植。早めの中耕で根痛みしないように対策しました。

① 第8 ② 高精度栽培収益確認試験 ③ 2022/8/1 ④ 2023/7月中旬

大玉トマト		 ▶ 大玉
	【10/23 環境状況】 	▶ ミニ 大玉トマト7段開花、ミニトマト10-12段付近開花。給液ECは設定上限の7.0まで上げています(単肥処方)。排液ECは現在17~20程度になりました。 ミニトマトは各品種、糖度8度以上となり高糖度と呼べるレベルになっています。大玉はまだ2段収穫なので糖度5度後半といったところ。11月には6-7度程度まで上がることを期待します。収量は初期の着果不良のため、かなり少ない状況。

① 第1 TSK ② ココバッグ温湯培地加温試験 ③ 2022/8/23 ④ 2023/4月頃

ミニトマト		
		4段目が開花してます。 ココバッグ台座を『中央排水タイプ』に変え、バッグ下にPEパイプを通し、お湯を循環させて培地を加温します。 本格的な試験は夜温が下がる11月頃からになります。(それまでは通常の栽培)

① 第1 P ② コマツナ品種比較試験 ③ 2022/8/22 ④ 2022/9月下旬

コマツナ		次作準備中
	11月上旬より、秋蒔きコマツナ試験を開始予定	施肥を行いました。現在、水と土をなじませるため土壌の蒸しこみを行っています。

① 第7 TSK ② 海外野菜展示 ③ 2022/9月 ④ 2023/3月頃

海外野菜		北 南
	・カリフラワー ・つるなしインゲン ・黒キャベツ ・ケール ・非結球芽キャベツ ・ズッキーニ ・ピーツ ・ニンジン ・スイスチャード ・チコリ	北棟では、ズッキーニ、インゲンの収穫が始まっています。 南棟では、10/21にニンジン・スイスチャードを播種しました。 長く展示を楽しんでいただけるように作型を分けて栽培しています

① 第7 露地 ② カボチャ露地抑制栽培試験 ③ 2022/8/20 ④ 2022/11/下

カボチャ		
		親蔓1本仕立てと子蔓3本仕立ての2タイプ仕立てで行っています。親蔓がうどんこ病に罹病してかなり傷んでしまいました。日焼け防止で黒寒冷紗を被覆予定です。